

# 日语口译教程

北京第二外国语学院

苏琦 编著

商务印书馆

# 日 语 口 译 教 程

北京第二外国语学院

苏 琦 编著

商 务 印 书 馆

1982年·北京

**日语口译教程**  
北京第二外国语学院  
苏琦 编著

---

**商务印书馆出版**

(北京王府井大街36号)

**新华书店北京发行所发行**

**北京第二新华印刷厂印刷**

统一书号：9017·1178

---

1982年5月第1版

开本 787×1092 1/32

1982年5月北京第1次印刷

字数 131千

印数 1—36,500册

印张 6 3/4

定价：0.73元

## 前 言

1979年教育部在大连召开了日语教材会议，会议确定由北京第二外国语学院编写一本日语口译教材。

北京第二外国语学院日语专业于1972年试开口译课，自1974年正式设置该课程。我曾为此编写过一本口译教材，并担任了讲授。本书便是在这本教材的基础上重新改写，并增添了一些课文，使书编得更充实、更实用一些，不光为在校的同学上课用，也想为目前正在从事口译工作的同志提供一些可供参考的资料，但仍以作为教材为主。我想，这教材不宜编成一个包罗万象的口译参考资料的汇编，而只能是通过若干实例，使书的使用者学到一些口译工作的基本方法，掌握一般接待工作中最基本的口译技能和熟巧，尤其是从日语口语的特点出发，使他们能较熟练地掌握敬语的使用，为口译工作打下较扎实的基础。因此本书安排了在机场的迎接、商谈日程、宴会、买东西、看京戏、离京去外地和回国之前等课。编写时不仅考虑了口语的语言特点和规律，而且还介绍了一些日本的有关礼节和习惯；并且配合课文，在每一课后作为类语，附上了用于不同场合的各种说法，同时也附上一批有关单词。

口译课是一门听说译三方面进行综合练习的实践课，须在学生掌握相当数量的词汇、句型和基本语法，并已有一定听

说训练的基础上进行。看来这门课程设在第三学年比较合适,约需七十二学时,本书共十五课,每课四到五学时。口译所用的是口头语言,尽量避免书面语言。中日两国语言文字在词类、句法构造、修辞规律等方面都是不同的。“译者对于原文有字字了解而无字字译出的责任”“译者所应忠实的不是原文的零字,而是零字所组成的语意”,笔译如此,口译也应如此。本书的译文是这些论点的初步尝试。口译一般说来是更能体现语言的交际功能,似可比笔译更灵活些,在课堂实践中可采取各种生动活泼的形式。

初稿完成后,全国外语院校教材编审委员会日语组委托宋文军教授主持了审稿会,会上给予很多的鼓励和帮助。对这些鼓励,我是受之有愧的;对这些帮助我表示由衷的感谢。这本书如果对日语教学工作有所用处的话,应当归于教育部抓了教材编写工作,并且和宋文军、孙宗光、李德、高山等教授、副教授的帮助分不开的。但由于时间匆促,水平有限,难免有不少错误和缺点,欢迎批评指正。

苏 琦

1981年5月

## 目 次

第 一 課	いっ かに	か 課	くうこう	で	むか	え	(一)	.....	( 3 )				
第 二 課	に	か 課	くうこう	で	むか	え	(二)	.....	( 7 )				
第 三 課	さん	か 課	くうこう	から		ホテル	まで	.....	( 18 )				
第 四 課	よん	か 課		ホテル	で	(一)	.....	( 31 )					
第 五 課	ご	か 課		ホテル	で	(二)	.....	( 35 )					
第 六 課	ろく	か 課		スケジュール	の	うち	あ	わせ	.....	( 47 )			
第 七 課	しち	か 課	さんぽ	散	歩	.....	( 58 )						
第 八 課	はち	か 課	えんかい	宴	会	(一)	.....	( 68 )					
第 九 課	きゅう	か 課	えんかい	宴	会	(二)	.....	( 76 )					
第 十 課	じゅう	か 課	か	もの	(一)	ゆうぎ	しょうてん	で	.....	( 89 )			
第 十 一 課	じゅういち	か 課	か	もの	(二)	るり	チャン	で	.....	( 97 )			
第 十 二 課	じゅうに	か 課	びょうき	病	気	.....	( 112 )						
第 十 三 課	じゅうさん	か 課	きょうげき	京	劇	を	観	る	.....	( 126 )			
第 十 四 課	じゅうよん	か 課	ちほう	地	方	へ	の	しゅつ	を	まえ	に	.....	( 140 )
第 十 五 課	じゅうご	か 課	きこく	帰	国	を	まえ	に	.....	( 148 )			

译文:

第一 课	机场迎接(一).....	(156)
第二 课	机场迎接(二).....	(158)
第三 课	由机场到饭店(的车上).....	(161)
第四 课	在饭店(一).....	(165)
第五 课	在饭店(二).....	(167)
第六 课	商谈日程.....	(170)
第七 课	散步.....	(174)
第八 课	宴会(一).....	(177)
第九 课	宴会(二).....	(181)
第十 课	买东西(一) 在友谊商店 .....	(184)
第十一课	买东西(二) 在琉璃厂 .....	(188)
第十二课	看病.....	(192)
第十三课	看京剧.....	(196)
第十四课	离京去外地之前.....	(201)
第十五课	回国之前.....	(205)

## 目 次

第 一 課	いっ かに	くうこう	でむか	空港での出迎え(一)……………	( 3 )
第 二 課	さん	くうこう	でむか	空港での出迎え(二)……………	( 7 )
第 三 課	さん	くうこう		空港からホテルまで……………	( 18 )
第 四 課	よん			ホテルで(一)……………	( 31 )
第 五 課	ご			ホテルで(二)……………	( 35 )
第 六 課	ろく			スケジュールの打ち合わせ……………	( 47 )
第 七 課	しち	さん	ほ	散歩……………	( 58 )
第 八 課	はち	えん	かい	宴会(一)……………	( 68 )
第 九 課	きゅう	えん	かい	宴会(二)……………	( 76 )
第 十 課	じゅう	か	もの	買い物(一) 友誼商店で……………	( 89 )
第 十 一 課	じゅういち	か	もの	買い物(二) 琉璃廠で……………	( 97 )
第 十 二 課	じゅうに	びょう	き	病氣……………	( 112 )
第 十 三 課	じゅうさん	きょう	げき	京劇を観る……………	( 126 )
第 十 四 課	じゅうよん	ち	ほう	地方への出発を前に……………	( 140 )
第 十 五 課	じゅうご	か	こく	帰国を前に……………	( 148 )



译文:

第一课	机场迎接(一).....	(156)
第二课	机场迎接(二).....	(158)
第三课	由机场到饭店(的车上).....	(161)
第四课	在饭店(一).....	(165)
第五课	在饭店(二).....	(167)
第六课	商谈日程.....	(170)
第七课	散步.....	(174)
第八课	宴会(一).....	(177)
第九课	宴会(二).....	(181)
第十课	买东西(一) 在友谊商店 .....	(184)
第十一课	买东西(二) 在琉璃厂 .....	(188)
第十二课	看病.....	(192)
第十三课	看京剧.....	(196)
第十四课	离京去外地之前.....	(201)
第十五课	回国之前.....	(205)

だい いっ か くう こう で むか  
第一課 空 港 での 出 迎 え (一)

ほう 鮑: あの、失礼ですが、日本経済訪中代表団の方でいら  
っしゃいますか。

おくむら 奥村: はい、そうです。

ほう 鮑: わたしたちは中国国際貿易促進委員会のものです  
が、団長さんの奥村さんはどなたでしょうか。

おくむら 奥村: はい、わたしが奥村です。

ほう 鮑: あ、奥村さんでいらっしゃいますか。ようこそおいで  
くださいました。ご紹介いたします。(中国側の  
責任者に向って)この方が団長の奥村さんです。  
(団長に向って)こちらは貿易促進委員会の王副主  
任です。

おう 王: ようこそいらっしゃいました。

おくむら 奥村: 奥村です。はじめまして。わざわざお出迎え恐れ入  
ります。

おう 王: どういたしまして。心からお待ちしておりました。  
さあ、どうぞこちらへ。(歩き出す)

ほう 鮑: お荷物をお持ちになりませんか。

おくむら 奥村: いや、結構ですよ。別にたいしたものもありません  
から。

おう 王: みなさん、朝が早かったので、お疲れになりましたで

しょう。飛行機ひこうきに酔よわれた方かたはいらっしゃいませ  
んか。

おくむら 奥村: いいえ、ごさいません。幸さいわい、快晴かいせいにめぐまれました  
し、わたしなどは飛行機ひこうきの中なかでぐっすり一眠ひとねむりしま  
したから。

おう 王: それはようございました。

おくむら 奥村: それにしましても、東京とうきょうから北京ペキンまで、ほんとうに  
ひと飛とびなんですね。今朝けさ九時半じはんに成田なりたをたったの  
ですが、もう北京ペキンに着ついているのですからね。

おう 王: ええ、海うみ一つ隔へだてただけですからね。それを直航便ちようこうびん  
ができるまでは、ホンコン経由けいゆでずい分大回ぶんおおまわりした  
ものですよ。

おくむら 奥村: ほんとうですね。今日きょうのこの便びんは大阪おおさかでおりのので、  
五時間ごじかんちよっとかかりましたが、東京とうきょう—北京ペキン直航ちようこう  
すと、四時間よじかんぐらいで着つきますからね。実じつをいま  
すと、わたしは六十年代ろくじゅうねんだいのはじめ、一度いちど来たきことが  
あるんですよ。そのころと比くらべると隔世かくせいの感かんがあり  
ますね。

おう 王: おっしゃる通とおりです。あまり遠とい話はなしは別べつとしまして  
も、定期便ていきびんが開ひらかれた当初とうしょは、週しゅうに二便にびんしかありま  
せんでした。航空券こうくうけんも何時いつでも買かえたものでした  
が、今いまはどうでしょう。週六便しゅうろくびんにふえたのに、それ  
でも大分前だいぶんまえから予約よやくしておかないと手てに入はいらないと  
いっぐあいた具合ぐあいですからね。

さあ、休憩室きゅうけいしつに着つきました。みなさん、ここでお茶ちやでも召上りめしあがりながら、荷物にもつの方ほうの手続きてつづをお待ちまちになってください。

いちどう 一同: はい、ありがとうございます。

ほう 鮑: みなさん、お茶ちやをどうぞ。

いちどう 一同: はい、いただきます。

おう おくむら 王: 奥村さん、たばこはいかがですか。

おくむら 奥村: いえ、わたしは飲のまないんですが、事務局じむきょく長ちやうの国松くにまつさんはヘビー・スモーカーですからね。(国松くにまつの方ほうを向むいて)国松くにまつさん、中国ちゆうごくのたばこを一本いっぽんどうですか。

くにまつ 国松: はあ、それはそれは。いただきます。

おう 王: いかがですか。中国ちゆうごくのたばこの味あじは。

くにまつ 国松: 悪わるくないですね。日本にほんのセブンスターずこより少しすこしやわらかい感じかんですが。

ほう 鮑: あの、お話はなし中ちゆう失礼しつれいですが、事務局じむきょくの楠田くすださんほどなたでしょうか。ちょっと荷物にもつのことなどについてご相談そうだんしたいのですが。

くにまつ 国松: あ、そうですね。楠田君くすだくん、ちょっとこちらへ。

くすだ 楠田: はい、何かなにかご用ようでも。

くにまつ 国松: 荷物にもつなどのことについて、こちらの方かたと相談そうだんしててください。

くすだ 楠田: はい、承知しょうちしました。

ほう 鮑: はじめまして。わたしは鮑ほうと申もうします。

くすだ 楠田: はじめまして。楠田くすだです。

ほう 鮑: この度みなさんのお世話をさせていただくことになりましたから、どうぞよろしくお願いたします。

くすだ 楠田: それはそれは。いろいろとご迷惑をおかけすると思  
いますが、何分よろしくお願いたします。

ほう 鮑: いいえ、こちらこそ。では早速ですが、みなさんの荷  
物を代わりに受けとって参りますから、托送のチケ  
ットを出していただけますか。それからパスポート  
も手続き上入用ですので、一時お預かりしたいと存  
じますが。

くすだ 楠田: パスポートはただいますぐ集めてきますから、少  
少お待ちください。

(しばらくして)

くすだ 楠田: はい、十二人分全部そろいました。

ほう 鮑: はい。それでは手続きが終り次第お返しします。

だいに か ふう こう で むか  
第二課 空 港 での 出 迎 え(二)

きゅうけいしつ  
(休憩室で)

ほう 鮑: こちらの出迎<sup>でむか</sup>えの者<sup>もの</sup>をあらためてご紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>させてい  
た<sup>ちゅうごくこくさいほうえきぞくしんいんかいふく</sup>だ<sup>しゅう</sup>き<sup>かい</sup>ま<sup>い</sup>す。こ<sup>ちゅう</sup>ち<sup>ごく</sup>ら<sup>こく</sup>が<sup>さい</sup>中<sup>ほう</sup>国<sup>えき</sup>際<sup>ぞく</sup>貿<sup>しん</sup>易<sup>いん</sup>促<sup>かい</sup>進<sup>ふく</sup>委<sup>いん</sup>員<sup>かい</sup>会<sup>ふく</sup>副<sup>いん</sup>  
主<sup>しゅう</sup>任<sup>かい</sup>の<sup>いん</sup>王<sup>かい</sup>××<sup>ふく</sup>さ<sup>いん</sup>ん<sup>ふく</sup>で<sup>いん</sup>す。こ<sup>ちゅう</sup>ち<sup>ごく</sup>ら<sup>こく</sup>が<sup>さい</sup>同<sup>ほう</sup>じ<sup>えき</sup>く<sup>ぞく</sup>貿<sup>しん</sup>促<sup>かい</sup>××<sup>ふく</sup>延<sup>いん</sup>  
処<sup>しゅう</sup>長<sup>かい</sup>の<sup>いん</sup>高<sup>かい</sup>××<sup>ふく</sup>さ<sup>いん</sup>ん<sup>ふく</sup>。あ<sup>ちゅう</sup>ち<sup>ごく</sup>ら<sup>こく</sup>が<sup>さい</sup>中<sup>ほう</sup>国<sup>えき</sup>機<sup>しん</sup>械<sup>かい</sup>進<sup>しゅう</sup>出<sup>つ</sup>口<sup>こう</sup>  
公<sup>しゅう</sup>司<sup>こう</sup>副<sup>こう</sup>経<sup>しゅう</sup>理<sup>こう</sup>の<sup>しゅう</sup>何<sup>こう</sup>××<sup>しゅう</sup>さ<sup>こう</sup>ん<sup>しゅう</sup>ん<sup>こう</sup>、そ<sup>ちゅう</sup>の<sup>こう</sup>隣<sup>かい</sup>り<sup>しん</sup>が<sup>しゅう</sup>中<sup>ちゅう</sup>国<sup>ごく</sup>糧<sup>かい</sup>油<sup>しん</sup>進<sup>しゅう</sup>出<sup>つ</sup>  
口<sup>しゅう</sup>公<sup>こう</sup>司<sup>こう</sup>副<sup>しゅう</sup>経<sup>こう</sup>理<sup>しゅう</sup>の<sup>しゅう</sup>辛<sup>しゅう</sup>××<sup>しゅう</sup>さ<sup>しゅう</sup>ん<sup>しゅう</sup>で<sup>しゅう</sup>す。な<sup>しゅう</sup>お<sup>しゅう</sup>申<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>お<sup>しゅう</sup>く<sup>しゅう</sup>れ<sup>しゅう</sup>  
ま<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>が<sup>しゅう</sup>、わ<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>は<sup>しゅう</sup>鮑<sup>しゅう</sup>啓<sup>しゅう</sup>章<sup>しゅう</sup>と<sup>しゅう</sup>申<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>す。こ<sup>しゅう</sup>の<sup>しゅう</sup>度<sup>しゅう</sup>み<sup>しゅう</sup>な<sup>しゅう</sup>  
さ<sup>しゅう</sup>ん<sup>しゅう</sup>の<sup>しゅう</sup>お<sup>しゅう</sup>世<sup>しゅう</sup>話<sup>しゅう</sup>を<sup>しゅう</sup>さ<sup>しゅう</sup>せ<sup>しゅう</sup>て<sup>しゅう</sup>い<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>だ<sup>しゅう</sup>く<sup>しゅう</sup>こ<sup>しゅう</sup>と<sup>しゅう</sup>に<sup>しゅう</sup>な<sup>しゅう</sup>り<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>  
で<sup>しゅう</sup>、ど<sup>しゅう</sup>う<sup>しゅう</sup>ぞ<sup>しゅう</sup>よ<sup>しゅう</sup>ろ<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>く<sup>しゅう</sup>お<sup>しゅう</sup>願<sup>しゅう</sup>い<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>す。

く<sup>しゅう</sup>に<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>つ<sup>しゅう</sup> 国<sup>しゅう</sup>松<sup>しゅう</sup>: そ<sup>しゅう</sup>れ<sup>しゅう</sup>で<sup>しゅう</sup>は<sup>しゅう</sup>、こ<sup>しゅう</sup>ち<sup>しゅう</sup>ら<sup>しゅう</sup>か<sup>しゅう</sup>ら<sup>しゅう</sup>も<sup>しゅう</sup>紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>さ<sup>しゅう</sup>せ<sup>しゅう</sup>て<sup>しゅう</sup>い<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>だ<sup>しゅう</sup>き<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>  
よ<sup>しゅう</sup>う<sup>しゅう</sup>か<sup>しゅう</sup>。

おう 王: はい、どうぞ。

く<sup>しゅう</sup>に<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>つ<sup>しゅう</sup> 国<sup>しゅう</sup>松<sup>しゅう</sup>: そ<sup>しゅう</sup>れ<sup>しゅう</sup>で<sup>しゅう</sup>は<sup>しゅう</sup>、わ<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>か<sup>しゅう</sup>ら<sup>しゅう</sup>日<sup>に</sup>本<sup>ほん</sup>経<sup>けい</sup>済<sup>ざい</sup>訪<sup>ぼう</sup>中<sup>ちゅう</sup>代<sup>だい</sup>表<sup>ひょう</sup>団<sup>だん</sup>の<sup>しゅう</sup>メン<sup>しゅう</sup>  
バ<sup>しゅう</sup>ー<sup>しゅう</sup>を<sup>しゅう</sup>紹<sup>しょう</sup>介<sup>かい</sup>さ<sup>しゅう</sup>せ<sup>しゅう</sup>て<sup>しゅう</sup>い<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>だ<sup>しゅう</sup>き<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>す。こ<sup>しゅう</sup>ち<sup>しゅう</sup>ら<sup>しゅう</sup>が<sup>しゅう</sup>団<sup>だん</sup>長<sup>ちやう</sup>の<sup>しゅう</sup>団<sup>だん</sup>長<sup>ちやう</sup>の<sup>しゅう</sup>  
奥<sup>おく</sup>村<sup>むら</sup>一<sup>かず</sup>雄<sup>お</sup>さ<sup>ん</sup>で<sup>す</sup>。こ<sup>しゅう</sup>ち<sup>しゅう</sup>ら<sup>しゅう</sup>が<sup>しゅう</sup>副<sup>ふく</sup>団<sup>だん</sup>長<sup>ちやう</sup>の<sup>しゅう</sup>武<sup>たけ</sup>田<sup>だ</sup>正<sup>まさ</sup>行<sup>ゆき</sup>さ<sup>ん</sup>  
ん。つ<sup>しゅう</sup>づ<sup>しゅう</sup>い<sup>しゅう</sup>て<sup>しゅう</sup>団<sup>だん</sup>員<sup>いん</sup>の<sup>しゅう</sup>実<sup>だん</sup>藤<sup>いん</sup>秀<sup>さね</sup>夫<sup>とう</sup>さ<sup>ん</sup>、椎<sup>しい</sup>野<sup>の</sup>友<sup>とも</sup>吉<sup>きち</sup>さ<sup>ん</sup>、有<sup>あり</sup>  
馬<sup>ま</sup>剛<sup>つよし</sup>さ<sup>ん</sup>、…事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>局<sup>きょく</sup>の<sup>しゅう</sup>楠<sup>くすだ</sup>田<sup>だ</sup>信<sup>のぶ</sup>男<sup>お</sup>さ<sup>ん</sup>、わ<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>し<sup>しゅう</sup>が<sup>しゅう</sup>事<sup>じ</sup>務<sup>む</sup>  
局<sup>きょく</sup>長<sup>ちやう</sup>の<sup>しゅう</sup>国<sup>く</sup>松<sup>まつ</sup>元<sup>もと</sup>彦<sup>ひこ</sup>で<sup>す</sup>。

おう 王: では、こ<sup>しゅう</sup>こ<sup>しゅう</sup>で<sup>しゅう</sup>ち<sup>しゅう</sup>よ<sup>しゅう</sup>つ<sup>しゅう</sup>と<sup>しゅう</sup>ご<sup>しゅう</sup>挨拶<sup>あいさつ</sup>し<sup>しゅう</sup>た<sup>しゅう</sup>い<sup>しゅう</sup>と<sup>しゅう</sup>思<sup>おも</sup>い<sup>しゅう</sup>ま<sup>しゅう</sup>す。奥<sup>おく</sup>村<sup>むら</sup>

だんちょう にほんけいざいほうちゅうたいひょうだん みな  
団長を始めとする日本経済訪中代表団の皆さま  
が、この度中国へおいでになりましたことにたい  
し、わたくしは中国国際貿易促進委員会を代表  
いたしまして、心から歓迎の意を表します。(拍手)  
ご存じのように、いま中国では全国人民が四つの現  
代化にとりくんでおります。その実現のためにも、  
わたくしたちは世界各国、わけても隣邦である日本  
の産業界と連けいを緊密にし、経済交流をひきつ  
づき活発にしてゆきたいと念願しております。こう  
したときに、日本経済訪中代表団の皆さんをお迎  
えできましたことは、わたくしたちにとりましても  
喜ばしい限りでございます。中国のふるいことば  
に「友あり遠方より来たる。また楽しからずや」とあ  
ります。わたくしたちの今の気持はまったくその  
通りでございます。代表団の皆さまの中には、始め  
て中国においでの方もしらっしゃれば、また、これま  
でに何回か見えられた方——老朋友もいらっしやい  
ます。老朋友の方はもちろんのこと、今度始めてお  
目にかかる方々——新朋友も、どうぞご自分の家  
にお帰りになったようなおつもりで、ゆっくりご滞在  
ください。何かご要望や不行届きの点などございま  
したら、ご遠慮なくおっしゃってください。(拍手)

おくむら  
奥村:

では、わたくしも一言ご挨拶させていただきます。え  
一。わたくしたち日本経済訪中代表団はこの度

ちゅうごくこくさいまうえきそくしんいんかい まね  
中国国際貿易促進委員会のお招きにあずかり、こう  
して御地を踏むことになりました。わたくしは十  
数年前に一度参ったことがございますが、その時は  
香港経由で、東京から北京へ着くまでに二、三日は  
かかったものでした。それが今では四時間ほどで着  
くのです。わたくしたちは今朝の九時半に成田をた  
ったのですが、ごらんの通り、もう北京空港の休憩  
室にこうして腰をおろしています。まったく昔と  
くらべると夢のようです。これも日中両国民のな  
がい努力によって国交が回復されたおかげです。

ただいまこちらでは大規模な経済計画がたてられ、  
四つの現代化の達成のため、全力をかたむけておら  
れるようですが、わたくしたちの方で何かお役に立  
つことでもあればと思ひまして、こうしてこの団を  
組織してやってきたような次第でございます。ぜひ  
こちらの経済事情をじっくりとこの目で見、この耳  
で聞き、今後の交流についても、忌憚のない話しあ  
いをもちたいと思っております。どうぞ皆さん、よ  
ろしくお願いいたします。(拍手)

\* \* \*

ほう 鮑: あの、国松さん、ホテルの部屋の割りあてについてご  
そうだん 相談したいと思ひますが。

くにまつ 国松: はい、どうぞ。あ、楠田君、君もちょっと。

くすだ 楠田: はい。



ほう 鮑: みなさんのお泊まりは北京飯店ですが、あわせて七  
部屋用意しております。そのうち三〇一号室は応  
接間つきで、三〇二号から三〇七号室まではツイ  
ンルームになっておりますが。

くにまつ 国松: そうですね。それでは三〇一号室は団長の部屋に  
して、三〇二号室は副団長、三〇三号室はわたし  
と楠田君、三〇四号室は実藤さんと椎野さん、三〇  
五号室は有馬さんと久保田さん……ということにし  
ましょう。

ほう 鮑: はい、わかりました。それではお荷物はそれに従っ  
て、それぞれの部屋にお届けいたします。それ  
から車は五台ありますが、団長さんは1号車、副団  
長さんと国松さんは2号車ということにして、あと  
はご自由に乘っていただきますでしょうか。

くにまつ 国松: ええ、それで結構です。(楠田に向かって) 部屋番号と  
車のナンバーをみんなに知らせてください。(鮑に  
向って) いや、どうもお手数をかけます。

\* \* \*

おう 王: 荷物も全部受けとったようですから、それではホテ  
ルへ参りましょうか。どうぞこちらへ。

おくむら 奥村: では、お先に。

(あるだ  
歩き出す)  
(入国管理事務所で)

りょけんしんさかん 旅券審査官: パスポートを出してください。